

第 17 回日本ジオパーク委員会議事録

日付： 2013 年 5 月 20 日（月）

時間・場所：

公開プレゼンテーション

9:00～15:50 幕張メッセ 国際会議場 国際会議室

委員会審議

16:00～17:30 幕張メッセ 国際会議場 204 号室

出席者

委員長

尾池和夫 京都造形芸術大学 学長

副委員長

町田 洋 日本第四紀学会（東京都立大学 名誉教授）

委員（五十音順）

阿部宗広 一般財団法人 自然公園財団 専務理事

伊藤和明 NPO 法人 防災情報機構 会長

菊地俊夫 日本地理学会（首都大学東京 教授）

小泉武栄 東京学芸大学 特任教授

高木秀雄 日本地質学会（早稲田大学 教授）

中川和之 日本地震学会（時事通信社 山形支局長）

中田節也 日本火山学会（東京大学地震研究所 教授）

成田 賢 全国地質調査業協会連合会 会長

佃 栄吉 産業技術総合研究所 地質調査総合センター代表

オブザーバー

内閣府政策統括官（防災担当）付 火山対策担当主査

斎藤公一滝

外務省大臣官房国際文化協力室 外務事務官

門倉俊明

文化庁文化財部記念物課 主任文化財調査官

桂 雄三

林野庁国有林野部経営企画課 森林施業調整官

和泉慎太郎

国土交通省砂防部砂防計画課地震・火山砂防室 火山対策係長

西谷 諒

観光庁観光地域振興部観光資源課 係長

家村成章

気象庁地震火山部火山課火山監視・情報センター 火山防災官

今井敏之

気象庁地震火山部火山課 噴火予知調整係長

道端秀和

環境省自然環境局国立公園課 課長補佐

吉松重記

環境省自然環境局国立公園課 事業係長

速水香奈

環境省自然環境局国立公園課 環境専門員

山本貴央

事務局

利光誠一 産業技術総合研究所地質標本館 館長

下川浩一 産業技術総合研究所地質標本館 副館長

渡辺真人 産業技術総合研究所地質標本館
住田達哉 産業技術総合研究所地質標本館
宮内 渉 産業技術総合研究所地質標本館
濱崎聡志 産業技術総合研究所地質情報研究部門

日本ジオパークネットワーク
事務局長 斎藤清一

公開プレゼンテーション

9:00 開会

(渡辺)パブリックセッション「日本のジオパーク」の趣旨説明。ジオパーク審査のしくみ、審査の流れ、審査基準等の説明。最後に、発表時間と質疑応答時間について周知。

9:13 霧島GP：霧島ジオパーク ～自然の多様性とそれを育む火山活動～

テーマ：自然の多様性とそれを育む火山活動

霧島市長による挨拶

概要：宮崎、鹿児島県下5市2町 / 多種多様な火山地形、1300 種植生、歴史神話 / 33 ジオサイトに4カ国語の解説板

運営：霧島ジオガイドネットワーク立ち上げ、環境省エコミュージアムセンター、5市1町に拠点施設

普及：学校でのGP講座、ジュニアガイド、教員向け講座、防災講座、ジオガイド養成(初級88名、中級40名)

ジオツーリズム：2011、12年は新燃岳噴火の影響で減少、国際化取組みとして外国人モニター実施

(質疑応答)

すでに日本のGGNに火山があることに対する霧島の特徴は？

プレートの沈み込みの火山列が目で見えるという点。30 万年前からの火山活動と地球規模の気候変動に関連した多様な植生で独自性出したい。

世界へ伝えるためのコンセプトがわかりにくい。自己採点がしっかりしているとの印象であるが、準備は進んでいるのか？パンフレットの最初にジオパークとは何かを説明する必要はないのでは？誰に向けてのメッセージかを明確に。ジオツアーの実績数については、ジオツアーとジオを含む他のツアーとを分ける必要がある。

プレートの沈み込みの火山列が目を見て体験できるということ。準備については努力する。パンフは初めての観光客向けだが、地元住民にも配付している。さらにコースブック、マップも用意している。霧島はエコとジオの両方を説明する流れである。数字はジオについて解説したツアーである。説明もジオの比重が増えている。

活火山なので防災が重要。世界からの訪問客にどう説明するか。

噴火前の2010年までも防災に関する掲示等はあるが見にくかった。ハザードマップの掲示、気象・火山情報の表示、登山届、サイレン、避難壕設置などの対策を行っている。

日本GP審査のとき周辺自治体との温度差を感じた。噴火後はどうか。

噴火で地域が一体化し、関係機関の連携もできた。

申請書30ページのところで、鹿の増殖が観光客の餌付けによるとされているが、これは農業・林業等の影響によるものである。

火口と火口湖、個々の山の火山史そのあたりをちゃんと出すと魅力が増す。

努力します。

9:38 白山手取川GP：白山手取川ジオパークの活動：世界ジオパークを目指して
テーマ：山-川-海そして雪、いのちを育む水の旅 キーワードは外的営力（河川）
世界性：1)雪；北陸は世界で最も低緯度の豪雪・頻雪地帯、2)水文地形；水文地形博物館
と水文地形実験室、世界的に特殊な地域

GGN加盟の目的：地域アイデンティティの確立／水循環と外的営力からの恵み／「生きている」GPの提示／「水」というテーマで世界に発信したい。

（質疑応答）

行政文書の「侵食」ではなく「浸食」の字を使うべき。

行政文書に基づき使っていたが、今後、積極的に使っていきたい。

日本GPになったのの効果は？外国人対応、国際化、GGNとの連携は？

まずスタッフの考え方が変わり、周りに伝わりはじめた。地域の人が足元を見つめるようになり、今ある財産に素晴らしいものがあると感じるようになった。子供たちも地元の財産としてジオを学んでいる。今年5月から外国語専任を雇用している。今年から海外視察を行いたい。7月にドイツに視察に行く。

今回のプレゼンでは、地形地質を学んでいない人にとって非常に理解が困難である。浸食が一目でわかるような施設はあるか？事務方も専門的知識が必要。

国交省の施設があり土石流の疑似体験が出来る。地質系の事務局員がサポート。

日本GP審査のときも指摘したが、手取川流域で現在エリアに入っていない地域を組み込めないのか。

右岸地域と協議している。現在、教育、ジオツアーでお互い理解を取りつつ協力。声かけは続けている。

外的営力として水だけで壊すというのではなく、重力もある。内容が難しすぎる。川北町と能美町との連携、活動の見通しは？

上流では重力による崩壊が大きく、浸食、運搬、堆積の観点からは水。日本GP認定時にはイメージとコンセプトが先行しているとの評価もあったので、GGN認定では中味での評価を期待して難しい内容になった。周辺自治体とは扇状地域全体とジオツアーで連携している。

ダム役割や人々の生活とのかかわりにおいて国土交通省施設の利用が明確でない。

一覧表では示していた。ジオパークの状況・活動報告等をしている。

10:04 アポイ岳GP：アポイ岳ジオパーク。ジオと結びついた暮らし

テーマ：地球深部からの贈りものがつなく大地と自然と人々の物語

様似町長の挨拶

5000人弱の町からのチャレンジ／高山植物と昆布

概要：幌満カンラン岩（新鮮、ユーラシアPに北米Pが衝突してマントル物質が上昇）／5エリア、33ジオサイト／拠点施設（アポイ岳GPビジターセンター先月オープン、カンラン岩広場、アポイ岳地質研、アポイ岳調査研究支援センター等）／12名の認定ガイド、英語対応ガイドは養成中／ふるさとジオ塾（2010-12年全27回、1000名）／北大と連携して昆布研究実施

（質疑応答）

GGNへの貢献は？採石場の問題をどうとらえているか？

地下深部が見える希少性と高山植物の保全活動を広く知っていただくことが貢献。採石は国定公園の規制の中で適切に採掘されており、自然破壊といわれても産業として貢献しており敢えて案内したい。

GGN では持続可能な発展を目指しており、それについてはどうか？説明の仕方は当初から変わったか？

持続可能性については反論が難しい。現状では十数年間の採掘だが、その後は不明。

説明について、やさしく伝えるのは難しいが、まだ勉強中。説明口調を打破したい。

日高昆布は大きな売りである。海底と昆布の関係など、日本の文化としてもっと説明すべき。カンラン岩の海底と昆布の関係は？今現在変動帯で津波や大地震もあるが、過去のカンラン岩を上昇させる運動と結びつかない。プレート運動の変遷およびアポイ岳との関係を分かるようにして欲しい。

昆布は海運で流通した文化があり、ガイドから伝えたい。昆布の生育と海底のカンラン岩との関係は、現在北大で地域連携研究として研究中。プレート運動の変遷については JGN 認定の際にも出された質問で、まだ十分には説明できておらず、今後の課題。

なお、船を使って海から見るツアーも検討中である。

結果を説明してほしいと言っているわけではなく、GP は世界から学位を取りに専門家が来るところであってほしい。まだ謎でわからないものはわからないでいい。

10:29 本部半島：本部半島ジオパーク構想 島々が語る地球の営み

テーマ：島々が語る地球の営み

1)付加体とプレートテクトニクス、2)サンゴ礁と第四紀の自然環境、3)石灰岩の溶解とカルスト地形 4)ジオサイト(今帰仁、本部カルスト、塩川湧水、備瀬海岸) / ジオツアー (琉球大教育学部地理学研究室主催) / 解説板 (小6 想定)、ガイドブック (高1 想定) / ガイド養成 (初級 14 名、中級 10 名)

シマの良さを水族館だけでなくジオツアーで伝えたい。教員養成において GP で地球を総合的に学ばせたい。

佐渡市長挨拶

(質疑応答)

ジオパークのテーマというのは、全体のメッセージやストーリーのことで JGC の意図が伝わっていなかった。大学が中心になって運営している GP は苦労しているようだが、何を学び、どうしていきたいか？今後の持続可能性は？

地質・地形・水・植生の個々ではなく、地球科学を横断的に見ることを重視したい。

今もガイド養成は大学が行っており初級・中級のガイドがいる。上級やそれを超えるジオサイトマスター養成した後は、養成を地元へシフトさせる。他 GP とは、研修を通して情報交換している段階。今年度から国の一括交付金を活用、次年度以降もその予定。将来は北部広域に事務局を移すべく調整中。

石灰岩と地球環境との関係の説明は行っているのか？

その視点を含めてガイドは説明している。石灰岩が形成されている場所の観察や実験を組み合わせるなどのストーリー作りをしている。

沖縄ならではのテーマがあるはず。GP の範囲は半島部と離島部が分かれているように見える。

サンゴ礁と気候地形学的に他の地域には無い地形が特徴である。半島と離島とが航路でつながっており、全体が秩父帯に属する。

地質時代毎に分けて、ヘッド岬などをストーリーの核にしてうまく作れないか。

石灰岩でも時代毎に異なることを伝えたい段階にあり、それらをつなぐストーリーはまだ。

休憩

11:01 佐渡：佐渡ジオパーク構想「金と銀の島でたどる 3 億年 日本海 3000 万年 佐渡島 300 万年の旅と人の暮らし」

テーマ：金と銀の島でたどる 3 億年 日本海 3000 万年 佐渡島 300 万年の旅とひとの暮らし！
概要：佐渡金山（世界文化遺産めざす）/ 世界農業遺産 / トキ / 大佐渡・小佐渡山地の形成 / 佐渡島は今も隆起中 / 10 ジオサイト（大陸の時代、日本海の形成、リフトの形成、佐渡島の形成） / 調査研究活動 / 教育活動（「佐渡学」6 年前から、出前講座 27 回 1275 人、市民講座、認定ガイド 21 名、バスガイド研修 / ビジターセンター検討中 / 拠点施設（佐渡金山博物館など） / モニター旅行、市民シンポ（質疑応答）

金と銀の島ということだが、成因と歴史の説明が必要なのでは？

佐渡と言えば金のイメージ。金の生成には日本海拡大が関係していると説明している。

3 億年、3000 万年、300 万年それぞれと人との関わりを説明すべき。他地域から学んだものは何か。佐渡では何をしたいか。世界農業遺産との関連をどうするか。

他地域を見て、地元では佐渡の財産を認識していないと感じた。その認識と佐渡の大地の恵みに感謝できるようにしたい。土台である土地があって農業と金山があるので、その土台の部分をしっかりやりたい。

佐渡は津波に対してむき出しの場所にあり、大災害となりかねない。津波防災はどうか？

周囲にあまり岸壁を造れないので、緊急連絡網や一早い高台への避難誘導路を整備中である。地域防災組織は 300 あり全てで防災士を養成、本土への避難方法を国交省と協議中である。

モニターツアーの内容とその成果は？

ジオガイドによる電動自転車ツアーを実施したが、段丘地帯なのでルートやポイントの設定に不十分な点があった。陸と海をつなげる見せ方も考えたい。

世界農業遺産、世界遺産、GP という 3 推進組織の共存は大丈夫か。

各々にやるとうまくいかない。3 つの土台は GP であり、それをよく知る人をヘッドに置きたい。中心は GP である。

11:22 四国西予：四国西予ジオパーク構想「私たちのルーツをたどる旅～古大陸の軌跡と、海・里・山の原風景を楽しむ～」

テーマ：私たちのルーツをたどる旅～古大陸の軌跡と、海・里・山の原風景を楽しむ～

3 つの多様性：地質、地形と生態学、人の暮らしと文化

14 ジオサイト、130 ジオポイント / 黒瀬川構造帯 / 拠点施設（城川地質館） / 平成 24 年 7 月協議会設立 / ジオツアー（39 回、1154 人） / ジオクルーズ / ジオガイド養成講座 / インドネシアの大学との交流実現

西予市長挨拶

（質疑応答）

古い化石の産出地域の保全はどうしているのか？黒瀬川構造帯という難しいものをどのように説明しようとしているのか？

現在、化石の産出は稀だが、産出地は県の天然記念物として保護されている。黒瀬川帯の成因は諸説あるが、地球史の中でのダイナミクスを拠点施設で一般人にもわかりやすく説明したい。

「私たちのルーツ」の「私たち」とは誰をさすか？見せる事が難しい構造線について他地域のジオパークから何を学んだのか？わからないことや謎については、そのまま伝えることも必要。

私たちとは、全訪問者である。下仁田、糸魚川などを見て、古大陸の断片、かけらなどやさしいことばのテーマへと変えた。

肱川最上流部の宇和に盆地があり文化があるというのは不思議なこと。四国山地西端で急激な隆起があったことを示しており、南海トラフの沈み込みなどとの関係している。なぜ古い石が見られるのかも説明してほしい。

4 エリアのサブテーマは全体ストーリーとしてつながらないか。
今後検討したい。

11:43 桜島・錦江湾：「火山の大地」を日常的に体感できる場所 ～桜島・錦江湾ジオパーク構想～

テーマ：火山と人と自然のつながり～海まで広がる活火山の営みと都市の共存～

GP の背景と関心の高まり：桜島錦江湾国立公園の誕生、IAVCEI2013、大正噴火 100 周年

エリア：桜島、鹿児島市街地、海 / 6 ストーリー

GP 認定の目的：行政と市民の一体化 / 桜島と錦江湾の魅力 / 世界一の火山防災 / 1 対多という NPO の限界を超え GP という大きな枠組として新たに組み込む / 眺める観光から体験型ツアーへ変化

(質疑応答)

実績も積んでいる。境界、範囲の定義に関し、「錦江湾」に対する始良カルデラの説明が不十分。霧島との連携を視野に入れて境界を設定してほしい。

他の市町村との関係で、桜島火口と若尊カルデラのそれぞれの中心円で境界を引いた。

霧島は GP として先行地域。昨年から湾奥会議 (4 市) もできたので、早く霧島に追いつけば連携はあると思っている。

シラス台地を入れていないのは不自然。

シラスは桜島からのものと思っている人は多い。ジオサイトを通してシラス台地の説明を考えている。

新幹線等による訪問客に、見える桜島をどう見せるか？

船、フェリーによるツアーやクルーズを昨年から実施している。

キャッチコピーが陳腐に感じる。始良カルデラエリアは一般人への説明はむずかしいので、霧島との連携を。

テーマ設定はかなり議論したが、普遍化は否めない。サブテーマに思いを込めたつもり。エリアについては課題として認識している。

一般のガイドの養成と、どのような人材育成を考えているのか？

町歩きのボランティアにジオを加えていくことによる育成を考えている。歴史ガイドなどもジオの視点を入れたガイドにしていきたい。

12:06 おおいた豊後大野：そしていま、ぼくらの時代～巨大阿蘇火砕流から 9 万年。大地に祈り、いかされ

テーマ：巨大阿蘇火砕流から 9 万年。大地に祈り、いかされ

豊後大野市長挨拶 (ここには何も無いと言う子供たちに、違う、それは大人たちがそう言うんだ、と常々言っている。)

15 ジオサイト / 尾平鉾山は鉾物学発祥の地 / ジオガイド養成講座

(質疑応答)

阿蘇火砕流は阿蘇カルデラの形成から説明する必要があり、阿蘇 GP との連携が大切。阿蘇火砕流堆積面上に阿蘇、始良などの火山灰が降り積もり、現在の農業があり人々が暮らしている。磨崖仏の説明は？ 遺跡もある。

阿蘇 GP とは協議会の個人レベルでの交流があり、ジオツアーの中にも取り入れている。

申請書には磨崖仏も入っている。訪問客には大地の成り立ちや磨崖仏も取り入れて説明したい。ローム中に弥生時代の遺跡も見つかっており、遺跡もジオサイトに入れていきたい。

地元の盛り上がりは？名称の「おおいた」とメインテーマは不要ではないか。

市内各地で説明する中で認識が深まっており、ケーブルTVでの宣伝も一役買っている。

9万年前の阿蘇4火砕流のような低頻度大規模災害とその後。研究課題としても第一級でありとりあげてほしい。

本地域の特徴の一つとして、そのような研究も取り上げていきたい。

竹田市が入っていないが、一緒にやってもらいたい。

竹田市も関心を持っている。阿蘇、竹田、臼杵と広域連携をしていきたい。

竹田も入ると阿蘇GPとほとんど重なる。相互連携を推進してほしい。

12:26 三笠：三笠ジオパーク構想 ～石炭と共に生きる 大地の遺産と文明との共生～

テーマ：石炭と共に生きる 大地の遺産と文明との共生

三笠市長挨拶

概要：幌内炭鉱 / 三笠山 / 明治元年石炭の発見 / 5000万年前の石炭層 / アンモナイトの化石産地 / 6エリア / ジオツアー / ガイド養成の現地研修実施中 / 市長・学芸員による地域学授業 / 年間2000-1000万の予算

(質疑応答)

総合計画の中にジオパークをなぜ入れることができたのか？炭鉱跡に関し企業との関係が良好なのはなぜか？GPへの住民の熱意は？

人口確保を第1の目的としてジオパークを推進した。企業との関係は良好で、閉山に伴い土地等が三笠市に移管されてきた。当初、市民から何をやったらよいかという声があったが、現在は地道な協力呼びかけが理解されてきている。

炭鉱遺構はどう保全していくか。ジオと関連した地産地消はどう考えているか。ワインとジオツアーとはどう関わっているか。

保全は総合計画の中で安全対策を中心にやっている。テーマとして、石炭が見えるような商品開発を考えていく。南側斜面という地形が風通し等ブドウ栽培に適している。

6つのエリアを連ねるジオとの関連においてストーリーが欠けている。

横断的には、まだ視点が到っていない。包括的なテーマは今後考えたい。歴史的な順番では、炭田の発見、労働力としての囚人利用、農業振興、鉄道による農産物輸送。

地産地消の教育として市立の料理人学校を設立し、好評を博している。

関連してアイヌの時代のストーリーは、あるのか？

アイヌの資料は少なく、あまり分かっていない。

休憩

14:14 三陸：三陸ジオパーク構想 ～震災の記憶を後世に伝え学ぶ地域へ～

テーマ：悠久の大地と。海と共に生きる～震災の記憶を後世に伝え学ぶ地域へ～

概要：3県16市町村、日本最大面積、三陸復興国立公園 / メインテーマと3サブテーマ / 2.5億年、1億年、5000万年の地質 / 被災遺構を案内する語り部 / ジオガイド養成 / サッパ船観光(これまで1万人、津波学ぶ) / 地元との連携(JR、三陸鉄道)

大船渡ガイドの会：震災以降風化させては行けないという思い。今だからこそGPにする意味がある。被災地に触れる場所として三陸海岸がある。

めざす姿：未来に追いつく復興としてのGP推進で新たな地域づくり

(質疑応答)

よくここまで来たと思う。動きたくても動けない地域も多くあると思うが、そういう地域に GP をどう伝えていくか。

GP どころではない地域もあるが、全体的には GP と復興国立公園でやっていこうという気運である。動ける地域や県の出先機関が、他の地域を引っ張り、三陸地域が全体としてまとまった活動を考えている。

三陸の復興は重要。環境省の三陸復興国立公園との連携の具体的中味は？

ジオパーク推進協議会に環境省の出先が参画している。国立公園内で自然観察会の共同開催とジオを含む解説板の設置で連携している。

被災遺構保全で、地元住民の方には賛否あると思うが、その点は？

地元で残す気運のある所は協議会が後押ししている。GP については抵抗感はなく観光目玉にしていきたい。

経験の共有に関して、待つのではなく自ら他の JGN に働きかけて欲しい。

震災遺構保全とジオガイド養成のシステム・標準化について支援をお願いしたい。

自治体間にある復興の差をどのように束ねるか。

被害のひどかった地域でもガイド希望の人がいる。GP を切り札に協議会として復興に取り組んでいきたい。公共事業だけでなく、GP を切り札に協議会として復興に取り組んでいきたい。

津波だけでなく、この地域のジオを成因を含めて内容に入れていいのでは。津波を前面に出すと敬遠される。GP を持続的発展に結びつけることが大事。鉱山の生成なども入れてほしい。

陸と海を一体化させて GP をつくってほしい。海をちゃんと見ては如何か。

観光船で海からのジオガイドを充実する方向で考えていきたい。

14:37 とかち鹿追：火山と凍(しば)れの大地より ~ しかおいジオパーク構想 ~

テーマ：火山と凍(しば)れが育む命の物語

鹿追町教育長挨拶 (GP の出発点は教育。教育を中心とした GP づくり。)

概要：年間 80 万人の観光客 / 風穴地帯 (永久凍土) / 単成火山群 / 小中高一貫教育による「新地球学」 / ガイド活動 (ネイチャーガイド) / 修学旅行年間 1 万人

(質疑応答)

大地が凍って壊れるプロセスが見どころになっていたりするか？ネイチャーガイドのジオによるつながりは？他の地域から学んだことは？

冬の土壤凍結深 30cm で道路に亀裂が生じる。小学校の地面に穴を開けて観察できる。最終氷期にできた永久凍土のインポリューションは見つかり次第保全の方向。ジオツアーを最近 2 年間実施しており、人数限定で苔の森に連れて行き、風穴や火山活動との関連を話に入れている。地球学で子供が地域への愛着を持った。効果はあると感じた。特徴的なテーマで他地域との連携は難しいが、他地域へ発信していきたい。

永久凍土を探すのは難しいが、十勝坊主は残っていないのか？インポリューションはどうか。

全て畑になってしまって、十勝坊主は残っていない。インポリューションは、はぎ取り機材を準備しておいて工事で出たところ (深さ 2 ~ 3 m) を残すことを考えている。然別単成火山が大雪とどういう位置づけか？十勝三股火砕流をテーマにする場合、三國峠あたりと連携・合体はないのか？

上士幌との連携はまだだが、積極的にアプローチしたい。

十勝三股には永久凍土がある。火砕流と岩塊斜面の関係は？

火砕流は 100 万年前、溶岩ドームの成長は 4 ~ 1 万年前、岩塊斜面は 1 万年前くらいで、時代が違う。

14:58 おおいた姫島：火山でできた島 ~ 悠久の時と人の暮らしをつなげるものがたり ~
テーマ：「火山でできた島」~ 悠久の時と人の暮らしをつなげるものがたり ~

姫島村長の挨拶

概要：H25 に瀬戸内海国立公園 / 黒曜石：西日本全域の遺跡から発見、国の文化財へ / コンパクトにまとまったジオサイト / 達磨山：火口跡がえび養殖場

(質疑応答)

火山でできた島は他にも多くある。ここにしかないテーマを考えた方がいい。エリアはなぜ海まで広げたのか。国東半島側の海は、黒曜石のルートとして、縄文海進の際、陸続きになる事が関係するのか？

瀬戸内海で火山でできた島は姫島だけ。瀬戸内での活火山として地形が残っているのが特徴であり、火山が島となっている。姫島の火山活動は国東半島側の海まで地形が残っているので海まで広げた。黒曜石のルートは、そのとおり。

火山でできた島は日本中にいたる所にある。ナウマン象の化石が出土したことに触れるべき。姫の由来はなにか。

日本書紀に記載されている伝説が由来。

テーマは一般人が考えるようなものがよく、個々のサイトを全体的につなげたものがない。

2時間くらいで姫島を回る事が出来、1つのポイントでなく全部見る事が出来る。

なぜここに火山ができ、流紋岩が噴き出してきたのか？

火山フロント上で姫島がどういう位置を占めるかということだと思う。火山岩の成分を含めて、火山のできるプロセスも今後考える必要がある。

火山学的に面白い場所なので、是非、研究の場所・機会を提供してほしい。ジオストーリーが弱いのでもっと固めてほしい。

火山だけでなく、神話等とのつながりや学術的な謎をテーマに入れてほしい。

姫島には七不思議があるので、さらに神秘を加えたい。

15:19 美祿：「白」「黒」「赤」を巡る旅 ~ 大地の営みとその大地に支えられた人々の暮らし ~

テーマ：「白」「黒」「赤」を巡る旅 ~ 大地の営みとその大地に支えられた人々の暮らし ~
美祿市副市長挨拶

黒 (大嶺炭田：三畳紀、日本最古の石炭、無煙炭、美祿層群)

白 (秋吉石灰岩：古生代-三畳紀、カルスト地形、鍾乳洞、西台は保全、東台は採石)

赤 (銅：白亜紀スカルン鉱床、奈良大仏鑄造にも使われた日本最古の公営長登銅山)

(質疑応答)

ここで何を伝えていきたいか。なぜ秋吉台 GP にしなかったのか。白、黒、赤は一般的すぎてイメージするのがむずかしい。

H20 に 1 市 2 町が合併して美祿市ができたので、秋吉台を前面ではなく、この名称にした。住民がどういった土地に生活しているのかを自覚するひつようがあって、色のコメントにした。

色が別々にあると、結局一体感につながらない。白黒赤をうまくつなげるストーリーにしないと個々に伝わらない。

MINE (美祿、私の、鉱山) で掛詞にしているのかと思った。鉱物資源と人々の生活をどのくらい伝えているか？秋吉台等、GP にして新たに何がしたい？

“ MINE ” で HP のアクセスが高い。専門員も雇用した。GP を通して環境にやさしいことを発信していきたい。

石灰岩をテーマにして、地球環境問題を考えるきっかけにしてほしい。ガイドにも工夫を。

ガイドの階層化がされているが、全体のプロデュースはどこが行うのか？

秋吉台に有料ガイド団体が複数あるので、これからその組織化を検討したい。

美祢市にも多様なジオがあるので、白黒赤とまとめてしまうと、幅を狭めるのでは？中国大陸にある石灰岩との違いを明確にしてほしい。

平尾台との違いという観点も含め、地球史レベルのストーリーを入れてほしい。

西台の開発と東台の保全はアンバランスなので、GP の自然をどう維持、保全していくのか考えてほしい。

15:43 総合討論

(桜島・錦江湾 GP 推進)これからジオパーク目指す地域にとってテーマ設定で困ってくる。GP は地質だけではないと言いながらも、特色は何かと訊いてくる。そういうことを考える討論の場を作ってほしい。

(渡辺)まずは日本ジオパークネットワークの中で積極的に手をあげて議論してほしい。

(中川)個々のサイトを見るストーリーと全体のストーリーは別である。まず全体がちゃんとあった上で、そこをうまくイメージして伝えて欲しかったが、申請地域の方に伝わっていなかった。

(隠岐 GP)要望を伝えていただけたら、今年の大会で議論の場を作りたい。

(伊藤) 姫島のテーマを「火山が生んだ神秘の島」としたらいかがか？

15:48 閉会

委員会審議

配布資料

- 資料 1 第 16 回日本ジオパーク委員会議事録(案)
- 資料 2 審査基準(案)
- 資料 3 採点表(案)
- 資料 4 審査の手引き(案)
- 資料 5 委員日程表

16:00 開会

【委員長挨拶】

- ・日本ジオパークも 2008 年の開始から 5 年経過し、公開審査の参加人数が増加。
- ・産総研理事長に地質分野に理解のある中鉢氏が着任し、事務局体制の充実に期待。

【事務局による前回議事録の確認】

(事務局)指摘事項等あれば、後ほどメールにて連絡を。

【事務局による前回委員会以降の概況説明】

- ・GGN のユネスコ正式プログラム化について
- (事務局)秋の執行理事会で GGN がユネスコの正式プログラムとして認められる予定。

【今年度の審査基準等について】

(事務局)5月18・19日に行われた審査基準についてのJGNからの現地審査員との議論について報告。19日は委員も参加。現地審査の採点表については、昨日の議論で問題点などを記入したものを配布。採点表の変更事項の説明。

(議論)

・採点表で、左側の項目はなるべく変えず、右側を変えるようにした。採点項目をすべて満たす必要はない。

・自分自身(委員と地元)のチェックリストとして使用。現地審査で見ておくべき事を浮き彫りにするためにも重要。

・採点表の性格は?採点者のためのものか、それとも地元のためか?

両方の意味がある。

・申請書類とプレゼンも採点するのか?

行う。

・優先順位が書いてあるが、これは満たさない場合の理由を確認するということか?

その通り。

・日本のジオパークの場合は、現在できていなくても今後実現する方向が示されていれば良く、世界ジオパークの場合は、出来上がっている必要があると区別。

・今後の計画・進み方の方向を決める際のガイドライン的なもの。採点項目を満たす方向に計画が立っていない場合はまずい。

・ジオパークの名称について、単純明快で地域の事が分かる名称を薦めていたつもりであったが、これまでも不適切なものが多数あった。今後どう考えるか、また審査の際に名称が適切かという見方も必要。

(委員長)採点表はメール審議で仕上げていくことにする。

(事務局)委員の方には、来週はじめにお送りする

【現地審査へ進む地域の決定】

まずGGN新規申請の3か所および保留の阿蘇について現地審査を行うのが議論が行われた。審査を受けた経験を地域の方に生かしてもらいたい一方で、審査をGPの質の向上・保証に利用する地域があり、審査本来の目的からすると好ましくないとの意見が出された。再審査を含め審査対象地域が増えてきたが、JGCの能力を保ち審査の密度を上げるためにも、今後、全ての現地審査に行くことにはしない事が確認された。今回の新規申請地域3か所については、プレゼンテーションの内容から全て実施する事になった。阿蘇GPについては、アクションプランに対する達成度をみるため、次の委員会までに事務局が阿蘇GPの現地とやり取りを行い、その過程を委員会に報告しつつ、他3地域とともに審議する事となった。

JGNの10地域の審査については全て現地審査を行うことが了承された。

【現地審査の分担について】

委員長より、現地審査について JGN からの審査員を迎え入れる旨の発言があり、委員一同が了承。

・ JGN 現地審査員合流

現地審査員（50 音順）:

鵜飼宏明（天草御所浦 GP）、大嶋利幸（糸魚川 GP）、大野希一（島原半島 GP）、加賀屋にれ（洞爺湖有珠山 GP）、柴田伊廣（室戸 GP）、杉本伸一（島原半島 GP）、竹之内耕（糸魚川 GP）、野辺一寛（隠岐 GP）、原田卓見（アポイ岳 GP）、平田正礼（隠岐 GP）、廣瀬亘（洞爺湖有珠山 GP）、松原典孝（山陰海岸 GP）、目代邦康（自然保護助成基金）、柚洞一央（室戸 GP）

事務局により現地審査の担当案が示される。現地審査には、JGC 委員以外に現地審査員、補助員（記録係）が同行し、今後そのための日程調整を行うこと、また GGN 再審査日程を避けることが確認される。GGN 審査は 4 人（委員を 2 人にする）にすることを提案があった。

【第 18 回委員会の日程】

委員会の日程は 9 月 24 日 13 時から 17 時まで（成田委員は欠席）とすることが了承された。報告書は結論まで書き、その論拠、良い点と問題点の箇条書き、さらにプレス発表用資料（各地域の特徴）も用意することになった。

【その他】

- ・ 日本火山学会がジオパーク部会を設立。
- ・ 8 月 4 日の国際地理学会主催の市民講座で、尾池委員長が講演。
- ・ 7 月 24 日に GGN のマッキーバー氏が来日し、JGN・JGC 関係者（米田・斎藤・中田・渡辺・隠岐時 GP の担当者）と面会の予定。

（委員長）日本ユネスコ委員会とのすり合わせが必要となるので情報を求む

- ・ 濟州島アジア太平洋ジオパークネットワークの講演締切の延長について。
- ・ JGC 委員長と産総研理事長の面会について
 佃委員と渡辺事務局員とともに 30 分ほど挨拶の予定

・ 地震学会の内部には、JGN の学術部会からの要望を受けて検討するために、WG があるが、要請が無いので動いていない。委員および各地域の方も、要望を上げて欲しい。

（委員長）地震については、各地域の方は、現地の気象台とのコンタクトを積極的に。地震学会に限らず要望は積極的に。

- ・ 地質学会で、ジオパークが定番セッション化。学術支援の方は、積極的に講演を。

17:02 閉会